鶉野飛行場
平和祈念史

語り継がれる平和の祈り

兵庫県 加西市

かつて多くの若者たちが戦争のための
飛行訓練を実施した鶉野飛行場。
当時の姿を残す滑走路跡は、
後世へと平和を語り継いでいます―。

鶉野飛行場とは、第二次世界大戦が激化しはじめた頃、昭和18年に完成した旧日本海軍の飛行場です。姫路海軍航空隊が開隊され、多くの若者が飛行機の操縦訓練を実施しました。また、飛行場の南西にあった川西航空機姫路製作所鶉野工場では、「紫電」「紫電改」など500機あまりの戦闘機が組み立てられました。戦後75年を迎える今、これら戦争の記憶や遺跡は、平和の大切さを伝えています。

鶉野飛行場に関連する歴史

局地戦闘機「紫電改」

鶉野飛行場の建設と、そのあゆみを紐解いてみましょう。

昭和10年	5月7日	加西郡の町・村長が国に飛行場建設を依頼。
昭和17年	7月	川西航空機姫路製作所が開設、操業を開始。
	9月	鶉野飛行場の建設が決定。
昭和18年	3月	鶉野飛行場（姫路海軍航空隊）の建設工事を開始。
	10月1日	姫路海軍航空隊が開隊。
	10月8日	初めて鶉野飛行場に飛行機が着陸。
	10月	川西航空機姫路製作所で飛行機の生産を開始。
昭和19年	12月	川西航空機姫路製作所鶉野工場が開設。
昭和20年	2月	希望者を募り、神風特別攻撃隊「白鷺隊」を編成。
	3月	戦闘機「紫電改」の生産を開始。
	3月19日	加西郡で初の空襲。飛行機に被害。
	3月23日	「白鷺隊」が、宇佐海軍航空隊に向かう。
	3月31日	国鉄北条線網引駅西方で紫電改不時着による列車脱線事故が発生。
	4月6日～5月4日	「白鷺隊」が沖縄戦支援のため鹿児島から5回特攻出撃。63名の若者が戦死。
	5月5日	姫路海軍航空隊が閉隊。
	6月22日	川西航空機姫路製作所が空襲により破壊され生産を中止。
	7月24日	加西郡で第2回目の空襲。一般人にも被害。
	7月30日	加西郡で第3回目の空襲。工場や周辺家屋にも被害。
	8月15日	ポツダム宣言受諾の玉音放送、終戦。
	10月16日	試験のため、戦闘機「紫電」3機をアメリカへ移送。
平成11年	10月	滑走路傍に「平和祈念の碑」を建立。
平成28年	6月	国の払い下げにより、滑走路跡地が加西市の土地となる。

神風特別攻撃隊（はくろたい）「白鷺隊」

姫路海軍航空隊から編成された特別攻撃隊。厳しい飛行機訓練を重ね、戦地へと出撃したのは前途有望な青年たち。終戦までに63名の尊い命が失われました。

鵜野飛行場と
周辺に残る戦争遺跡など

鵜野飛行場跡周辺には、当時の姿を残す戦争遺跡が点在しています。
希少な戦争遺跡などから、鵜野を舞台に展開された戦争の爪痕を感じられます。

■戦争遺跡などの位置

巨大防空壕跡内部

❶鶉野飛行場滑走路跡

1,200mのコンクリート滑走路跡が当時のまま残る、全国でも貴重な戦争遺跡。「紫電」「紫電改」の試験飛行に使用されました。周辺には防空壕なども点在しています。

❷鶉野平和祈念の碑苑

尊い犠牲の上に築かれた平和が永遠に続くことを願い、平成11年、元隊員やご遺族、地元有志等により建立されました。碑には、元特攻隊員の思いや戦死者、殉職者名などが刻まれています。

❸局地戦闘機「紫電改」模型

紫電改は、第二次世界大戦で旧日本海軍が切り札として投入した戦闘機。姫路で作られた後、鶉野に運ばれ、飛行場滑走路跡の南西にあった川西航空機姫路製作所鶉野工場にて「紫電」「紫電改」が500機あまり組み立てられました。

❹巨大防空壕跡（自力発電所跡）

長さ14.5m、幅5m、高さ5mの空間を持つ基地内最大のコンクリート製防空壕です。自力発電所として使用されたといわれており、外部は小山にカモフラージュされています。

鶉野飛行場跡と
周辺に残る戦争遺跡など

❺対空機銃座跡

攻撃してくる飛行機を迎え撃つための機銃座で、1分間に230発の弾を5,000mまで発射できたそうです。地下室も含め、完全な状態で残っています。

❻防空壕

基地周辺には、コンクリート製や素掘の防空壕が点在しています。内部構造は爆風を和らげるため複雑になっているものもあります。

❼爆弾庫跡

砲弾、爆弾、戦闘機に装備した機銃弾燃料が貯蔵されていたといわれています。コンクリートの壁は70cm、天井は1mの厚みがあり、1t爆弾にも耐える構造となっています。

❽門柱・衛兵詰所跡

姫路海軍航空隊への入り口として、門柱、衛兵詰所、訪問者との面会所がありました。現在はそれらをイメージした休憩所が整備され、工事の際に発見された門柱基礎が展示されています。

平和を語り継ぐ

平和な今を生きる私たちに、戦争体験者が伝えたいこと。

塩河 清一 氏

当時12歳（中学1年生）。もとは鶉野飛行場建設地内に在住するも、飛行場の建設に伴い立ち退くこととなった。その後、姫路海軍航空隊の教官として隣家に下宿していた大岩虎吉少尉一家との交流が始まった。

平和を築くために、命を捧げた若者との思い出

私にとって鶉野飛行場跡は、悲しい場所なんです。隣の家に越してきた大岩さんを思い出すたびに、今でも目が潤みます。彼は操縦士を育てる教官で、妻と幼い娘2人がいて、私の家によく来ていました。ある日、私が学校の試験に備えて名札に名前を書こうとすると「形見や思て大事にしろよ」と名前を書いてくれました。また兄と防空壕を掘っていると「えらいやないか」と励ましてくれて、うれしかったことを覚えています。

出会って半年後の昭和20年3月下旬、大岩さんが特攻隊員に選ばれたことを聞かされました。寂しさ以上に、大きなうねりに逆らえないような怖さを感じました。九州の特攻基地へ向かう日の空は晴れ渡り、大岩さんの妻と娘2人も来て、私の家の庭で見送りました。飛行場から飛び立つ飛行機のうち数機が私たちの方へ近づいてきて、頭上を通り過ぎると翼を左右に振りました。別れの合図だったのでしょう。気丈にふるまっていた大岩さんの妻が「ワーッ」とひざまずき大声で泣き出しました。私も声を出して泣きました。大岩さんは串良基地（鹿児島県）から4月6日に出撃し、帰らぬ人となりました。

色々な考え方があると思いますが、私は戦争で10代後半から20代前半を中心とした若い人たちが、国のため、家族のためという純粋な気持ちで命を捧げたことを思うと、胸が締め付けられます。そういう人たちの顕彰や慰霊は続けていかなければならないという強い気持ちがあります。今ある平和な時代は、当たり前にあるものではないということを、折に触れて考えていかなければならないと思います。国や家族のために命を犠牲にした若者たちによって、今の平和があるんだということを。

鶉野飛行場跡

鶉野飛行場跡は、兵庫県加西市にあります。土地の起伏や家屋が少なく、法華口駅が近いことから、物資や人員移動に適した場所でした。

発行：兵庫県 加西市
〒675-2395 兵庫県加西市北条町横尾1000番地
TEL 0790-42-1110
WEB http://www.city.kasai.hyogo.jp
発行年月 令和2年2月